

<p>環境構成全般</p>				
	<p>「改訂環境構成の理論と実践」高山静子 郁洋舎 2021 (一度読むと読む前には戻れないのが専門性、専門性に基づいた環境を理解する)</p>	<p>高山静子 DVD「環境構成の理論と実践」新宿スタジオ 理論が第一巻、実践が第二巻。5分～15分の映像で演習付き。園内で話し合うの素材に。こどもとも社扱い</p>	<p>「保育プロセスの質」評価スケール、イラム・シラージ他、明石書店、2016 (園の環境を客観的・総合的に自己評価できる)</p>	<p>学びを支える保育環境づくり 高山静子 小学館 2017 (幼児教育の理解、保護者への説明には9つのコラムがお薦め)</p>
<p>遊びの素材理解</p>				
	<p>保育とおもちゃ 瀧 薫 エイデル研究所、2018 (発達に合わせた玩具一覧表が付属)</p>	<p>幼児保育 吉本和子 エイデル研究所、2003 (異年齢保育の環境や教材のリストなど) 同「乳児保育」もお薦め。</p>	<p>積木と保育 吉本和子・脇淵 爾良 エイデル研究所 2014 (発達と積木、積木の実践を詳細に紹介)</p>	<p>金子龍太郎・西澤彩木「森のようちえんの遊びと学び」かもがわ出版 2019 自然保育の理論と実践。</p>
<p>発達の理解</p>				
	<p>「発達が見えれば子どもが見える」乳幼児保育研究会 ぎょうせい、2009 専門的 (この本が難しいときは続編ピンクを)</p>	<p>読みあう活動研究会、樋口正春、仲本美央、絵本から広がる遊びの世界、風鳴舎、2017</p>	<p>発達のサインが見えるともっと楽しい0・1・2 さい児の遊びとくらし 鈴木八朗 メイト 2017</p>	<p>「育児担当制による乳児保育: 子どもの育ちを支える保育実践」西村真実 中央法規出版 2019 流れる日課がよく理解できる</p>
<p>質の高い幼児教育を行う</p>				
	<p>高山静子「改訂保育者の関わり」の理論と実践」郁洋舎 2021 (人的環境を豊かにする、子どもの言葉を引き出す関わりなど)</p>	<p>ダナ・サスキンド「3000万語の格差—赤ちゃんの脳をつくる親と保育者の話しかけ」掛札逸美訳、高山静子解説 (親が子どもと会話することが最も有効な幼児教育であることが示されている)</p>	<p>ハンガリー たつぷりあそび 就学を見通す保育、私保連、サライ美奈、かもがわ出版 2014 (後半に、一斉保育から担当制へと変えた体験談有)</p>	<p>子どもが自ら育つ園庭整備: 挑戦も安心も大切に作る保育へ、木村歩美、井上寿、ひとなる書房、2018 (こどもは挑戦、保育者は安心の園庭づくり)</p>
<p>特に理解を必要とする子ども</p>				
	<p>はう運動あそびで育つ子どもたち 今井寿美枝 大月書店 2014 (子どものピフォーアフターの写真に注目。高い運動量の遊び)</p>	<p>感覚遊び運動遊び 木村順 講談社 2010 (大型遊具、室内遊具を買う前に。すべての子どもに療育が必要。意図をもって遊具を買えば、子どもが変わる)</p>	<p>幼稚園・保育園の遊び環境 25の原則、東間掬子、黎明書房、2017 (運動環境の取り入れ、特にかみつきで困る1歳児の環境づくりに)</p>	<p>発達障害の子の脳を育てる忍者遊び 柳沢運動プログラムを活用して、講談社、2016 (環境だけではカバーできない課題に)</p>

